

# 高精細だから味わえる立体感 液晶も有機ELも

他社に先駆けて、8K液晶テレビを商品化したシャープ。その最先端の高画質技術を惜しみなく注ぎ込みながら、いよいよ「手に届く価格」を実現した8Kチューナー内蔵の8K液晶テレビ「DW1」ラインと、そして独自の映像エンジンと「S-Brightパネル」の掛け合わせで画質を磨き上げた4K有機ELテレビ「DS1」ライン、いずれも魅力を持つ、新しい2つのアクオスの真価に迫ります。



## 8K液晶テレビ

# SHARP DW1

ライン

70V型  
60V型

¥OPEN  
SPEC ●チューナー：BS 8K×1、BS 4K・110度CS 4Kデジタル×2、地上デジタル×3、BS・110度CSデジタル×3 ●パネル方式：液晶 ●画素数：7,680×4,320 ●HDMI：4系統 ●外形寸法：1564W×990H×361Dmm(70V型)、1356W×870H×290Dmm(60V型) ●質量：約46.5kg(70V型)、約34.0kg(60V型)



特別大賞 金賞

## 手に届く、新しい8K映像体験

液晶テレビの先駆者として「8K」を牽引してきたシャープ。その一歩先を行く取り組みの成果は、画質や機能先鋭化させたフラッグシップモデルにだけ顕れているわけではありません。いち早く手に届く価格で8Kチューナーを内蔵した高精細な8Kテレビを商品化したことも、VGPアワードの審査会で大いに評価されました。一般家庭のリビングでも8Kテレビが選択できる可能性があるという事実は、ライフスタイルや文化にも影響を及ぼします。事実、その映像を見れば、この表現が大袈裟ではないことをご理解いただけると思います。まるで肉眼でリアルな風景を見ているような新しい体験に胸が躍るはず。スペックだけを捉えれば、画素数では4Kの4倍ということですが、映像にはそれ以上の飛躍を感じる凄みがあります。こうした新しい体験を生み出したのは、8K時代ならではの映像表現に対する知見を得て、それを具現化するための映像エンジンの開発なくしてはあり得ないもの。こうした取り組みと成果が高く評価されて、8K液晶テレビ「DW1」ラインには、栄誉ある特別大賞と部門金賞が授与されました。

本機で観るNHKとループル美術館が共同で制作した、8K放送番組「ループル美術館 美の殿堂の500年」は、まさにテレビの概念を変える体験。8K解像度になると、近接視聴でも画素の存在を意識することはなくなり、視点が自由になります。近づけば近づいただけディテールが見えてくるのです。また、HDRにより、絵画にちりばめられた金色の輝きがより一層リアルな質感を増します。現場に赴いたかのように、作品の奥深さや経た時の長さ、空間の湿度感までも伝わってくるかのようです。また、カメラが作品を超クローズアップするシーンも圧巻。リアルな美術館でも叶わない超近接鑑賞を可能にします。これはリアルを超える新体験といえるでしょう。そのほか、カメラが上下左右にゆっくり移動しても常にシャープで自然な描写が維持されるのも好感を持ちました。たとえばYouTubeで楽しむ8K映像も圧巻です。全身全霊を尽くして紡ぎ出されたと思えるテレビ映像に、8K時代を確信しました。また、特筆すべきは、映像エンジン「Medalist Z2」による、2Kや4Kからのアップコンバート8K品位。現在主流の地デジなどの放送の映像も高精細で美しく楽しめて、8Kならではの高精細度を活かすことができます。

### 新8K映像エンジン「Medalist Z2」

従来よりも処理能力を高めた8K映像エンジン「Medalist Z2」を搭載。2Kや4Kの映像も、8K精細感復元や8Kリアリティ復元によって、被写体が本来持っていた情報を補完して、立体感を伴った高精細な8K超解像アップコンバート映像に変換します。この「Medalist Z2」と、8K映像技術の知見を活かして開発された4K映像エンジン「Medalist S2」はVGPアワードで「開発賞」にも輝きました。



### 家電連携できる「COCORO VISION」



シャープの大画面8K液晶テレビはAndroid TVを搭載。音声操作に対応するほか、インターネットとつないで各種映像配信サービスなどを手軽に楽しむことができます。さらに生活家電と連携する便利なスマートホーム機能を持つ「COCORO VISION」もシャープならではの、強力なIoT対応家電を豊富にラインアップしている総合家電メーカーである、シャープの魅力が際立ちます。

# のある映像 アクオスで!



VGP審査副委員長  
鴻池賢三  
Kenzo Konoike

## 4K有機ELテレビ

# SHARP DS1

ライン

65V型  
55V型

¥OPEN  
SPEC ●チューナー：BS 4K・110度CS 4Kデジタル×2、地上デジタル×3、BS・110度CSデジタル×3 ●パネル方式：有機EL ●画素数：3,840×2,160 ●HDMI：4系統 ●外形寸法：1448W×894H×290Dmm(65V型)、1227W×770H×290Dmm(55V型) ●質量：約32.5kg(65V型)、約26.5kg(55V型)



開発賞 企画賞



## 明るく色鮮やか、奥行きも深い

昨年満を持して発売したシャープ初の4K有機ELテレビ「CQ1」がスマッシュヒットを飛ばし、有機ELテレビのブランドとしても存在感を放つシャープ。新たに登場した「DS1」は「AQUOS OLED」の名を初めて冠したモデルで、その意気込みが感じられます。まず目を惹かれるのは、発光体を刷新した新世代OLEDパネルによって、より明るく色鮮やかになった「S-Brightパネル」の採用です。発熱を抑える独自構造によって、明暗も豊かに描きます。それに加えて8Kテレビ技術で培った、高度な精細感復元処理とリアリティ復元処理を4Kテレビに最適化した新映像エンジン「Medalist S2」の搭載もシャープならではの。地上デジタル放送、ネット配信映像など、まだまだ多い2Kや、2K未満の映像も美しく高精細に表示してくれます。

実際に映像を見ると、従来モデルからの進化は歴然です。明るく高コントラストで、色純度の向上による鮮やかな色彩は心に沁みるほど。S-Brightパネルは、RGBそれぞれの波長特性を改善することでよりビュアな発色が可能になっています。また、ビュア化したRGBを掛け合わせることで、全ての色のコントロールが精密に行えて、色数の多い芳醇な表現に繋がっています。またシャープ独自の高放熱システムによって、画面全体を均一かつ明るくキープできることにも驚きました。ピーク輝度が高まったことで、煌めきが呼び起こす感動、心に響く色彩美の世界へと昇華させ、HDR映像のアドバンテージがさらに冴え渡ります。新映像エンジン「Medalist S2」の効果は、2K映像でも圧倒的です。ディテールの豊かさや輪郭の滑らかさを両立し、何も言われなければネイティブ4Kコンテンツと思ってしまうほど。ブルーレイで映画作品を鑑賞しましたが、アップコンバート映像にありがちな不自然さがありません。入力解像度や周波数に合わせてシャートの幅を最適化する「4K超解像アップコンバート」は、元映像の情報を保ち、奥行きも深い立体的な映像を堪能させてくれます。

視聴者を惹きこむ高画質を実現した、完成度の高い4K有機ELテレビです。

### 新4K映像エンジン「Medalist S2」

新映像エンジン「Medalist S2」でもっとも特徴的なのは、4K超解像アップコンバート時の「精細感復元処理」。解像感を増すには「シュート」と呼ばれる輪郭線を加える手法がありますが、元の映像には含まれない情報なので加減が重要です。シャープはこの映像技術がとて巧みで、画柄に合わせてシュートの幅をコントロールする緻密な制御によって、新次元の映像表現を実現しています。



### 明るく色鮮やかな「S-Brightパネル」



バックカバー  
独自の放熱構造  
有機ELパネル

新世代OLEDパネルと独自の放熱構造の掛け合わせによって、より高コントラストで色鮮やかな映像を実現する、シャープ独自の「S-Brightパネル」。ナチュラルで惹きこまれるような4K画質を実現する映像技術として、VGPアワードで「企画賞」を獲得しました。